

「日本の諸地域～近畿地方～」

本単元で育成する資質・能力

論理的・建設的批判能力, 主体性・積極性
コミュニケーション能力

1 単元について

(1) 生徒観

本学級は、意欲的に授業を受けることができる生徒が多く、ペアやグループでは自分の考えを述べたり、疑問に思ったことを素直に表現したりする場面がよく見られる。一方で、進んで発言をする生徒は偏っており、全体の間では発言しにくいという生徒も少なくない。

アンケート結果から、半数以上の生徒が社会科の授業を楽しく、役に立つものだととらえているものの、一方で、主体的で対話的な授業であるという実感は十分に持ちきれていないことがうかがえる。また、「覚える教科」というイメージをもっている生徒が多い。

定期テストでは「社会的な思考・判断・表現」、「資料活用の技能」の定着度が低く、授業でも資料の読み取りや自分の考えを書くという学習では手が止まる生徒が多い。

(2) 単元観

この単元は、「地理分野」(4)ウ「日本の諸地域」の内容の取扱い(イ)において、「指導に当たっては、地域の特色ある事象や事柄を中核として、それを他の事象と有機的に関連付けて、地域的特色を追究するようにすること。」と示されている。近畿地方においては、歴史的背景を中核とした考察を行う。地域の産業、文化の歴史的背景や開発の歴史に関する特色ある事柄を中核として、それを国内外の他地域との結び付きや自然環境などと関連付け、地域の地理的事象の形成や特色に歴史的背景がかかわっていることなどについて考え、追究する学習活動を通して、地域的特色をとらえさせる。本時は既習知識を活用し、近畿地方の町や人々のくらしが歴史的にどのようにして形づくられてきたかを追究・考察する。

(3) 指導観

指導にあたっては、生徒が学習課題に対して主体的、対話的に取り組み、そのことを通して思考力、判断力、表現力が高まるよう学習形態をとり入れたい。対話を通して学習課題の解決に向かうことで、自己存在感を実感させたり、共感的に学び合えることの楽しさを味わわせたりしながら学習が展開していくことを期待したい。資料の読み取りや自分の考えを表現する力が弱いので、複数の資料を提示し、その中から有用な情報を選択したり比較したりすることで読み取る力をつける。

本時については、「外国人の旅行者はなぜ奈良より京都に多いのか？」という学習課題に対して、知識構成型ジグソー法の手法を用いた授業を展開し、「コミュニケーション能力」や「論理的・建設的批判能力」の伸長につなげたい。知識構成型ジグソー法は、学習課題に迫るために必要な3つの資料を生徒が別々にもち、それを持ち寄って課題解決に向かう手法である。

2 単元の目標

- ・京都市や奈良市の伝統的な文化や歴史的な景観に関心を持ち、近畿地方の歴史的背景について意欲的に追究しようとしている。
- ・近畿地方の地域的特色や歴史的背景を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
- ・収集した資料から、近畿地方の地域的特色について判断できる資料を適切に選択し、それを基に読み取ったり、図表などにまとめたりできる。
- ・近畿地方について、歴史的背景を中核とした考察の仕方を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

3 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
京都市、奈良市などの歴史的背景を中核とした考察の仕方を基に、近畿地方の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	京都市、奈良市などの様々な都市の特色について、その歴史的背景の違いに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・収集した資料から、近畿地方の地域的特色について、有用な情報を適切に選択している。 ・適切に選択した情報を基に、京都市、奈良市などの地域的特色について、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 	近畿地方にある京都市、奈良市などの地域的特色には歴史的な背景があることをとらえ、その特色を理解し、知識を身に付けている。

4 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

- 育成したい能力は、①コミュニケーション能力 ②論理的・建設的批判能力 ③主体性・積極性 ④回復力・耐える力 ⑤自らへの自信 ⑥高い志の6つである。

協調学習の手法である知識構成型ジグソー法を用いて、課題解決に向けて生徒が主体的に取り組むことで③「主体性・積極性」を育成できると考える。また、自分の考えを仲間と議論し思考を深めていく活動を通して①「コミュニケーション能力」と②「論理的・建設的批判能力」を育成できると考える。

5 単元の指導計画（全5時間）

次	学習内容	時数	評価の観点				評価	
			関	思	技	知	評価規準	評価方法
1	「近畿地方の生活の舞台」 ～近畿地方の自然環境の特色とは何か?～	1	○			○	近畿地方の自然環境の特色について、地図などを使って、その特徴を捉えている。	授業観察 発表 ワークシート
2	「近畿地方の人々の営み」 ～近畿地方の人口や産業の特色とは何か?～	1				○	近畿地方が歴史的な先進地域で、それが地域の都市や産業に関連していることを捉えている。	授業観察 発表 ワークシート

3	「古都の成り立ちと現在」～外国人の旅行者はなぜ奈良よりも京都に多いのか？～ [本時]	1		○	○	京都・奈良に世界から観光客が来る理由を、外国人の人が来やすい環境整備や歴史的背景からとらえている。	授業観察 発表 ワークシート
4	「都市と郊外の成り立ち」～都市と郊外の変化の理由はなぜか？～	1		○		大阪市が江戸時代から商業都市として発展し、私鉄によって大阪大都市圏の形成が進んだことをとらえている。	授業観察 発表 ワークシート
5	「現代に開発されたニュータウン」～ニュータウンが建設された理由を考えよう～	1		○		神戸市などで大規模な開発が行われてきたこととその問題点を、地図や写真を使って読み取っている。	授業観察 発表 ワークシート

6 本時の学習指導について

(1) 題材名

「古都の成り立ちと現在」

(2) 本時の目標

- 奈良よりも京都に外国人観光客が多い理由を資料から必要な情報をまとめ、表現することができる。

(3) 本時の評価規準

- 資料から奈良に比べ京都の外国人観光客が多い理由を交通面・外国の人が来やすい交通面・景観面・魅力面の3つ視点から、多角的・多面的に考察し、歴史的景観を守る町づくりと関連付けて説明することができる。【社会的な思考・判断・表現】【資料活用の技能】

(4) 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点 (◇) (◆支援を必要とする生徒への手立て)	評価規準【観点】 (評価方法)	資質・能力の評価
導入 (10分)	Q「外国の人が日本の和を知るにはどこがいいのか」 A <u>京都 奈良 東京など</u> ・近畿地方への外国人観光客数の差がある理由を考える。 目標の確認	・近畿地方への外国人観光客の推移のグラフを提示し、観光客の多さに着目させる。		
	外国人の旅行者はなぜ奈良より京都に多いのか？			
	・個人で問いに対する予想を考える。			

<p>展 開 (35分)</p>	<p>エキスパート活動 京都と奈良を比較 A(交通に関する資料) ○京都の方が移動手段が多い。 ○短時間で移動できる。 ○JR やバスの交通路が多く整備されている。 B(魅力についての資料) ○観光地の周りや駅の近くに宿泊施設の数が多い。 ○外国の人でも泊まりやすいように駅の近くにホテルが配置されているので、京都は日帰りが少ない。 C(景観) ○景観に関する条例を読み取る。 ○景観に関する取り組みでは、色や建物の高さの規制だけでなく京都では、「和」のつくりを残している。 ジグソー活動。 ○それぞれの要点を説明し合いホワイトボードにまとめる。</p> <p>クロストーク ○各グループでまとめたことを発表する。</p>	<p>○エキスパート資料 ・活動にはあまり参加せず、内容について聞かれた質問だけ答える</p> <p>◆内容の読み取りが難しい生徒には周りとの声掛けをするよう促す。</p> <p>・キーワードでまとめることや長くなりすぎないようにまとめていく。</p> <p>・他のグループの発表から、自分が気付かなかったことを見つけ、理解に役立てる。</p>	<p>・資料から読み取ったことをグループでまとめ、他のグループに移動後も資料を根拠にして説明できる。 [表現]</p> <p>・三つの資料を基に関連づけて、問いに対する答えを考えまとめている。 [思考][技能]</p>	<p>①「コミュニケーション能力」</p> <p>②「論理的・建設的批判能力」</p>
--------------------------	---	--	---	---

奈良と比べて京都は外国人にとって観光地までの交通網の整備がされていることや観光地や駅の周りには泊まりやすいように宿泊施設が充実(数)している。また、昔の町並みを残すために京都では歴史的景観を奈良以上に守る取り組みとして、看板の大きさや色の制限だけでなくお店などには「和」のつくりを取り入れ、外国の人が好む風情を残している。

<p>まとめ (5分)</p>	<p>今までの情報を整理して自分なりの考えをワークシートにまとめる。</p>		<p>○ワークシート ・最初の自分の予想と活動を通しての変化がエキスパート資料の内容に根拠づけてまとめられている。</p>	
---------------------	--	--	---	--

学校名： 安芸太田町立加計中学校 授業者： 高野 真仁

教材作成者： 高野 真仁

授業日時	10月27日(火)	教科・科目	社会科・地理
学年・年次	2学年	児童生徒数	男子7名 女子9名 計16名
実施内容	古都の成り立ちと現在	本時/この内容を扱う全時数	3/5
教科書及び教科書会社	東京書籍 新編 新しい社会 地理		

授業のねらい(本時の授業を通じて児童生徒に何を身につけてほしいか、この後どんな学習につながるために行うか)
資料から奈良に比べ京都の外国人観光客が多い理由を交通面・外国の人が来やすい交通面・景観面・魅力面の3つ視点から、多角的・多面的に考察し、歴史的景観を守る町づくりと関連付けて説明する力を身に付けさせたい。
メインの課題(授業の柱となる、ジグソー活動で取り組む課題)
外国人の旅行者はなぜ奈良より京都に多いのか?
児童生徒の既有知識・学習の予想(対象とする児童生徒が、授業前の段階で上記の課題に対してどの程度の答えを出すことができそうか。また、どの点で困難がありそうか。)
授業前の生徒の予想では、「有名な場所が多いから」や「TVでよく紹介されているから」などが挙げられると予想される。
期待する解答の要素(本時の最後に児童生徒が上記の課題に答えるときに、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための規準)
<u>期待する解答の要素</u> 奈良と京都の具体的な違いを明確に言葉で表現することができたらよい。
<u>期待する解答の具体例</u> 奈良と比べて京都は外国人にとって観光地までの交通網の整備がされていることや観光地や駅の周りには泊まりやすいように宿泊施設が充実(数)している。また、昔の町並みを残すために京都では歴史的景観を奈良以上に守る取り組みとして、看板の大きさや色の制限だけでなくお店などには「和」のづくりを取り入れ、外国の人が好む風情を残している。

各エキスパート＜対象の児童生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパートで抑えたいポイント、そのために扱う内容・活動を書いてください＞

A(交通に関する資料)

- 京都の方が移動手段が多い。
- 短時間で移動できる。
- JR やバスの交通路が多く整備されている。

B(魅力についての資料)

- 観光地の周りや駅の近くに宿泊施設の数が多い。
- 外国の人でも泊まりやすいように工夫がされているので、京都は日帰りが少ない。

C(景観)

- 景観に関する条例を読み取る。
- 景観に関する取り組みでは、色や建物の高さの規制だけでなく京都では、「和」のつくりを残している。

シグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容

【地理分野】

- 東北地方
- 過去から伝わる伝統産業を残すために後継者を育てていく。

【公民分野】

- 現代社会の文化と私たち
- 現代の文化を引き継ぎ継承する意識を育てる。

本時の学習と前後のつながり

時間	取り扱う内容・学習活動	到達して欲しい目安
これまで	「近畿地方の生活の舞台」 ～近畿地方の自然環境の特色とは何か？～	近畿地方の自然環境の特色について、地図などを使って、その特徴を捉えている。
前時	「近畿地方の人々の営み」 ～近畿地方の人口や農業や工業、伝統産業の特色とは何か？	近畿地方が歴史的な先進地域で、それが地域の都市や産業に関連していることを捉えている。
本時	「古都の成り立ちと現在」 ～外国人の旅行者はなぜ奈良よりも京都に多いのか？～	京都・奈良に世界から観光客が来る理由を、外国人の人が来やすい環境整備や歴史的背景からとらえている。
次時	「都市と郊外の成り立ち」 ～都市と郊外の変化の理由はなぜか？～	大阪市が江戸時代から商業都市として発展し、私鉄によって大阪大都市圏の形成が進んだことをとらえている。
この後	「現代に開発されたニュータウン」 ～ニュータウンが建設された理由を考えよう～	神戸市などで大規模な開発が行われてきたこととその問題点を、地図や写真を使って読み取っている。

上記の一連の学習で目指すゴール

近畿地方の地域的特色を、産業や文化の歴史的背景や発展の歴史に着目して、整理し他地域や海外との結びつきを捉えることができる。

		<ul style="list-style-type: none">•他のグループの発表から、自分が気付かなかったことを発見し、理解に生かす。
--	--	---

グループの人数や組み方	
○16名を4人×4グループとする。 ○学力差や男女バランスは考慮しない。	